

生徒指導提要(改訂版)からみる新富町の不登校支援の在り方

教職員・SC・SSW等によるチーム対応

<第4層 欠席や傾向が続く児童生徒>

(困難課題対応的生徒指導)

- ① 定期、随時ケース会議による具体的な対応の決定
(実態把握、短期目標、支援内容、担当者、支援組織体制、保護者支援、家庭訪問計画等)
- ② 別室、時間差、校内支援センター等の提供
*まず自分で自分の居場所を決めて、自分で自分の時間割をつくることを認め、寄り添う。
- ③ 学習機会の提供(内容・方法・担当者)
- ④ 担任、SC等(含相談したい職員)の個別相談
- ⑤ SC、SSW、福祉課等との連携
*SC、SSWの情報を管理職が把握
- ⑥ 4つの実感のさらなる充実
 - ・自発性(自分で決めたという実感)
 - ・有能感(自分でできたという実感)
 - ・関係性(自分は認められているという実感)
 - ・帰属意識(自分には居場所があるという実感)

<第3層 不登校の予兆がみえる児童生徒>

(課題早期発見対応)

- ① 遅刻や早退、不登校の予兆を受け止める教職員の力とそれを共有する空気の形成
- ② アセスメントツール(いじめ、健康相談調査等)の分析
- ③ 担任、SC等(含相談したい職員等)による個別相談
- ④ 児童生徒の話を受け止める養護教諭、担任、CO等

<第2層 不登校未然防止>(課題未然防止教育)

- ① 児童生徒へSOSを発信する力をつける。
- ② SOSをキャッチする教職員の受信力の向上
- ③ 相談したいときはいつでも相談できる体制作り
- ④ 新入生の確実な情報の引継ぎ(不登校傾向状況、支援内容・方法)
- ⑤ アセスメントツール(いじめ、健康相談調査等)の実施
- ⑥ 担任、SC等(含相談したい職員)による全員面接および相談

<第1層 すべての児童生徒>(発達支持的生徒指導)

*自分たちの学級・学校は自分たちでつくるという意識の醸成と対応

- ① 教室が安全安心な居場所になる。
- ② わかる、できる授業の工夫(新富スタイル/富田スタイル)
- ③ 4つの実感を大切にする。
 - ・自発性(自分で決めたという実感)
 - ・有能感(自分でできたという実感)
 - ・関係性(自分は認められているという実感)
 - ・帰属意識(自分には居場所があるという実感)
- ④ スクールワイドPBSによる児童生徒職員が認め合う学校組織